

中 北 海 道

現代俳句協会

会 報

96号

令和4年
12月6日発行



現代俳句協会の近況報告

中北海道現代俳句協会事務局長

F よ し と

中北海道現代俳句協会の事務局長就任となって早くも四年の歳月が経ちました。以来、順調に例年の行事を遂行できたのも会員、幹事各位の支えがあつてのことと深謝いたします。

近年増えたのが紙上会議。書類の郵送、議題の賛否の回収・集約の上、決議内容を報告します。一堂に会さず結論が早く出る一方で、これで良いのかとの疑問も生じます。直接意見を出し合い、反論や新たな視点などを考慮し、次回に反映させる、本来の議事のあり方について思い直す良い機会となりました。

本年度は総会・大会・研究交流句会などを奇跡的に開催することができ、会員の皆様のご参加に感謝する次第です。これらのイベント終了直後に自粛期間の要請や、コロナ感染の拡大があり、思い返せばみなさまのたゆま

ぬご協力があればこそこの会の遂行でした。このような状況下で現代俳句協会からは会員の減少に対処するため「会員増強委員会」という名称の会合が立ちあげられ、五月から九月まで第四土曜にウェブによる会合が持たれ、北海道からは私が代表して参加しました。現代俳句協会の会員は現在五千人を切る状態です。このままでは会の存続も危ぶまれる状況です。この会議は会員増加のための環境作りを主眼に置いたもので、各地区協会からそれぞれの取組や意見の提示があり、大分県での綿密な対応や、他の地区協会では現代俳句協会会員とは別に独自の地区協会会員というものが設けられているなど、会議の中で初めて知った事例も少なくありません。中北海道ではこれまで通り、会員所属の結社や句会の各幹事が、各種イベントなどで協会の紹介と会員募集の活動を地道に行うことを提案してきます。

この会員増強の意識づけによって既存会員の心的負担が増え、俳句創作活動を躊躇させることになっては本末転倒です。無理のない範囲で各会員が会員増にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

会議上、この他に現代俳句協会の一般社団法人化についての報告がありました。日本伝統俳句協会、俳人協会が公益社団法人として活動する中、現代俳句協会も法人化することで社会的認識度を上げ、さまざまな俳句活動を発展的に行えるようにするための取り組みです。今後協会から方針が示されますので、あらためて会員のみなさまにお知らせいたします。

中北海道現代俳句協会

「令和四年度俳句研究交流会」を終えて

組織活動部 鹿岡 真知子

於・令和四年八月二七日(土) かでの2・7 520研修室

新型コロナ感染拡大が続く中、開催方法について直前まで悩みましたが、意を決して会場開催としました。三年ぶりの集会に参加申込みは五九名と思わぬ多数となりましたが、その後の感染急拡大のためキャンセルがあり、結果的に当日参加二九名の句会となりました。

原田組織活動部部長の開会挨拶、五十嵐会長と司会・鹿岡の挨拶に続き、一光六客を選句し、自己紹介、合評、成績発表を行いました。会長による顕彰のあと、石本副会長の閉会挨拶にて無事終了の運びとなりました。

この会は大会とは異なり、順位を競うのではなく俳句を研究することが主目的の会です。合評では佳句のみならず、作者自身の気付かないそれぞれの一句の魅力や問題をみなさんで探る機会となりました。今回は例年より多くの発言があり、時間が不足気味となりました。結局当初の予定を若干超過して終了しましたが、次回は参加者からさらに多くの自由な発言をいただき、句作にとって新しい視点を得られる会となるよう、工夫したいと思えます。

は数
の選
字の
特選
数

令和四年度

俳句研究交流会作品

- | | |
|--|--------|
| 1 焼香のごとくに花の種を蒔く | 菅原 湖舟 |
| 1 逆上りして初夏が遊びをり | 林 冬美 |
| 日輪と我今此処に夏薊 | 桂井 俊子 |
| 約束の青水無月の美術館 | 遠藤 静江 |
| 2 軍靴は要らぬ大花野越えるには | 亀松 澄江 |
| バレリーナきつぱりと立ち揚羽蝶 | 渡辺のり子 |
| 七七日ひまわりひまわり押し寄せて | 鹿岡真知子 |
| 追ふたびに少年になる捕虫網 | 関根 礼子 |
| 海底のポストに手紙終戦日 | 原田 昌克 |
| 恍惚を忘れてしまった水中花 | 岡本 順子 |
| いつ終るともなき戦雲の峰 | 荒川 弘子 |
| 2 脳髄は旻 <small>そら</small> 原爆の日のドーム | 青山 醉鳴 |
| 1 紫陽花やおもちゃに飽きた子供達 | 中村きみどり |
| 海征かば聞こえくるなり貝風鈴 | 檜垣 桂子 |
| 夏うぐいす影濃きところ渡りけり | 齋藤 嫩子 |
| 短夜の夢は駆け足掌 <small>ショート・ショート</small> 編小説 | 金子真理子 |
| 日日草生者に死とふ大仕事 | 田口くらら |
| すこしづつ減りゆく呼吸花氷 | 大河原倫子 |
| ちぎりこんにゃく煮えカン又映画祭 | 長野 君代 |

2 油照りあつけらかんと消えた家

遠藤由紀子

さりげなき少女らの羽化てんとむし
海の碧すくへば消ゆる夏空へ

中田眞智子
今堀 冷子

青鷺の歩めりたましひを置いて

村 一草

1 死蟬のな お飛ぶがごと展翹せり

坂本 眞紅

弔砲のずんと白い百合赤い百合

阿部 満子

吾に水と油八月十五日

近藤由香子

炎熱やマスク剥いでるのつぺらぼん

小路 裕子

1 昨晚の話はラムネ開けてから

島崎 寛永

ポスターの諸行無常に秋の風

齋藤 雅美

2 夕焼やキッチンで聴くフランス語

齋藤 厚子

青蛙ひよいとルソーの密林へ

吉田 貴蘭

とうきびと銃が作られ畑 はたけ

黒田さち子

4 黙禱のため向日葵は重くなる

小川 桂

3 サランラップ切り口さがす終戦日

平尾 知子

本家より分家にぎやかさくらんぼ

倉部 仁子

山彦に応えて五つ朴の花

江草 一美

1 ポケットの底の破れて夏山河

永野 照子

流星や解き忘れし玉結び

F よしと

まだ知らぬ悲しみの沖あり泳ぐ

古川 和

鬱一つ連れて海まで花かんぞう

石川美智子

魚道にてピチャと跳ねる兎八月よ

伊奈 青人

老鷄の空くうをつつきて夏の果

中村みずほ

1 三尺寝琉球畳背に優し

石本 雪鬼

枇杷の種やがて眠りの底に落つ

信藤 詔子

2 広島忌祈る形に蝶がとぶ

井尾 良子

訪い終ふる実家の畑に野菊満つ

中田 琢志

ふる里の血が騒ぎ出す貝風鈴

鈴木きみえ

3 万緑の大腿骨はこのあたり

多田 琴美

大夕焼ルバーブジャムを掻き混ぜる

平 倫子

白木槿落つ戦争が晴れてゐる

五十嵐秀彦

八月の溶けてなくなる地球かな

村上 海斗

記憶愛かなしや軍歌哀しや口を出る

辻脇 系一

妓をんなひとり黒塀の朝顔の露つゆ地

石井 美髯

玻璃越しの母娘面会蟬時雨

藤森そにあ

天の川長女ばかりを乗せる舟

瀬戸優理子

2 半島の夏につながる生命線

中山ヒロ子

深秋へ音叉の波紋伸びゆけり

風花まゆみ

原爆忌隣あくびのエキストラ

廣田 和久

蛸のさつきのかなが終つひのかな

松王かをり

1頁〜2頁 角田 萌

蓮の花骨に刻んでゆく握手

新出 朝子

「ゆく」なので今まさに握手をしている所。骨にその握手を刻み込もうと力を込めている。ずっと会いたかった人か、もう会えないであろう人か。蓮の花は古くから仏教的イメージを象徴する。蓮の凛とした空感の中で覚悟めいた感慨を持ち、一期一会の握手に臨んでいる。

こんなにも話したきことありさくら餅

井尾 良子

話している所なのか、これから話すのか、まだ相手がいないのか。何にせよ話したいことがあるから桜餅を買った（作った）し、桜餅を見るときと話したい事が出てくる。こんなにあつたのかという小さな驚きを春の朗らかな陽気の中で好ましく思っている。

万緑や地鳴りの如く牛の尿

遠藤由紀子

五感で生命に殴られる。万緑・牛・尿の匂い、地鳴りのような音と振動、吸った空気は牛の汗の味がするだろうし、何より目から入るインパクトがでかい。のめされるのはこちらだけで、牛は泰然としてその後のし歩いでいくのだ。

3頁〜4頁 菅井美奈子

うしろだけ雨に濡れたる立葵

大河原倫子

雨が降り始めた頃の風向きで一方向だけ濡れている、あるいは建物に守られ片側だけが濡れていることがある。見慣れた花なのに意外な発見にはっとした一瞬を切り取った一句であろう。さて、正面の顔ではなく後ろ姿の背中で泣いているとしたら深読みだろうか。

延胡索原始の森のオーケストラ

小田島清勝

雪解け直後の原始林に北国ならではの勢いを思う。エゾエンゴサク、カタクリ、ヤチブキ、ミズバショウと一気に開花する植物、活動をはじめ動物たち、森はまた巡り来た季節への喜びに満ち溢れている。さあ、タクトを振る用意はできた。

八月を背負い続けている少年

亀松 澄江

八月とは先の大戦のことだろう。戦争での出来事を背負っている少年がいる。ジョー・オダネル氏撮影の「焼き場に立つ少年」を連想した。説明する必要がないほど有名な写真である。人類は同じ過ちを決して犯してはならない。

5頁〜6頁 金子真理子

峡一つ向こうの夜のほととぎす

齋藤 嫩子

時鳥は鶯の卵を一個くわえ出してからその巢に産卵し、雛は他の卵を放り出して育つのだと言う。海峡の一つ向こうのロシアは二〇二二年二月二四日ウクライナへの侵攻を開始した。冬を迎えても戦争の終わりは見えず、厳寒のなか人々の暮しはいかばかりかと思ひ遣られる。

病みがちな夫人の行方クレマチス

坂本 眞紅

病気がちの奥様だと言う。一家の主婦が一日寝込むだけでも家庭の中は混乱の極み。ただ、この句から想像される夫人はどことなく深窓の佳人のイメージがある。気鬱の病なのかもしれない。そして或る日、夫人は不意に姿を消してしまう。庭のクレマチスだけが真相を知っている。

独唱の頭蓋のどこか芽吹いている

瀬戸優理子

国を背負って戦う緊張感の中で歌う国歌独唱。「君が代」は音域が広くて難しく、歌い易いキーで入ると後で声が裏返ってしまう。あーやってしまった!と思っても歌いきるしかない。頭の何処かに春が生れ、草木が芽吹く。様々な芽のとりどりの色、形が歌い手を鼓舞している。

7頁〜8頁

鹿岡真知子

一本の棒が主役の落葉焚き

角田 桑里

一年の役目を終え、次の世に継ぐ落葉を集めこんもり山になった落葉に火を入れる落葉焚き。上手に火が巡るようにな一本の棒を使い火の加減をする。

この望が主役。作者は落葉焚きをしながら想い出を温め未来のことも考えたりしている。

唐突に来る空っぽ五月晴

原田 昌克

気持ちの良い五月晴れの日でも空っぽは唐突に来る。何が空っぽか。お腹か、財布かハートか。いずれが空っぽでも唐突に来るから辛い。予め心の準備があれば唐突からは救われる。五月晴の空が空っぽを増長させるが時間が経つとその暖かさで空っぽは満杯になる。

括らないくれないコスモスは風

古川 和

風に身を委せ揺れているコスモス。作者はコスモスは風と言いつ切る。だから括らないし、くれないのだ。

特に「括らない」が良い。作者の心のやさしさが強く伝わる。秋の日和のなか、風のままにそよぐコスモスは作者の自然体の生き方なのだろう。

9頁〜10頁

島崎 寛永

廃線は静かに埋まる冬夕焼

村上 海斗

かつてたくさんの人や物を運んできた線路は、廃線となって少しずつ草木に、あるいは雪に埋もれてゆくのだろう。同時に、人々の記憶のなかにも埋まってゆくのもかもしれない。ずっと遠くまで続いて行く廃線のスケール感が、「冬夕焼」の季語によって表されている。

秋彼岸雀どつさり集める木

和佐 尚子

「雀」ではなく「木」に主眼を当てて表現した点が面白い。また、「どつさり」の語も、たくさんの雀がとまっている重量感と、それによって枝がしなっている様子をよく表現している。表現の巧みさと「秋彼岸」の季語によって詩情が生まれている句である。

春日傘ひらきカモメになりにゆく

渡辺のり子

カモメは海岸にいるイメージだが、たまに街中でも見かけ、存外海岸という場所に限らずに自由に飛び回っているのかと思う。温かな日差しが差すようになり、ふわふわと軽い気持ちになる春に、日傘をひらいてそのままカモメのように飛んで行ってしまいたくなる。

第23回 中北海道現代俳句賞 作品募集 応募要領

- 1 応募作品 未発表20句(必ず題名をつける)※未発表の定義は「結社誌・同人誌・大会作品集などで活字化されていない作品」「ブログ又はSNS等Web上に発表されていない作品」とし、二重投句・過去の応募作品の再応募は不可
- 2 募集期限 令和4年12月15日消印まで
- 3 募集地域 石狩、空知、後志振興局管内在住者(会員以外の応募可)
- 4 応募用紙 指定の用紙を使用 会員には会報95・96号に同封
会員以外の方は顕賞係へ返信用封筒に〒・住所・氏名を記載し切手貼付のうえ指定の用紙を請求下さい(協会HPからダウンロードも可)
- 5 応募方法 応募料三千円を定額小替為・現金書留にて指定用紙を同封
- 6 顕彰 令和5年6月11日の北海道現代俳句大会席上にて行う
- 7 作品送付 〒061-2284 札幌市南区藤野4条5-19-6 菅井美奈子方
中北海道現代俳句協会 組織活動部行
- 8 選者 五十嵐秀彦・石川美智子・永野照子・松王かをり・渡辺のり子・瀬戸優理子の6氏
- 9 問合せ先 会長 五十嵐秀彦 011-852-7014 顕彰係 菅井美奈子 011-592-6426

第二〇回 大とかち俳句賞全国俳句大会報告

広報部 青山 醉 鳴

令和四年九月二四日、とかちプラザにて第二〇回大とかち俳句賞全国大会がありました。当会幹事・瀬戸優理子氏の講演「俳句への架け橋」では氏の俳歴や諸先輩・俳友との交流など私的なことも惜しみなくお話し頂き、多くの部分に共鳴致しました。また、会員の安田中彦さんが雑詠句で大とかち俳句賞を受賞されたほか、多くの会員が入賞し顕彰されました。

第二〇回大とかち俳句賞全国大会 主な入賞句一覽(関係分)

課題句 (白鳥) ・とかち俳句連盟賞

白鳥の声の聞こえる肘枕

辻脇 系一

優秀賞 佳作

眠るため白鳥とならねばならぬ
闇を畳める白鳥の眠りかな
白鳥帰るめそめそとついでゆく

青山 醉 鳴
亀松 澄江
原田 昌克

特別選者選

宮坂静生選

十字架のかたち白鳥帰りけり

小路 裕子

中原道夫選

眠るため白鳥とならねばならぬ

青山 醉 鳴

雑詠句・大とかち俳句賞

キャベツ剥く原始林に入るように

安田 中彦

日本伝統俳句協会北海道支部賞

槍投げの少女に遠き日雷

安田 中彦

十勝俳句連盟賞

かなぶんの仰向けは空青いから

白洲 アテナ

優秀賞

七夕や星ぞろぞろと海に出て

平川 靖子

白鳥に変わる少年試着室

信藤 詔子

佳作

誘蛾灯森へと還る線路趾

中村 みずほ

特別選者選 中原道夫選

大粒の雨おほつぶの青梅に
汗臭き手拭い首に「おぼんでした」

古川 和
亀松 澄江

第32回 北海道現代俳句大会のご案内 (中現俳主管)

- 1 日時 令和5年6月11日(日) 午後1時より
 - 1 場所 札幌サンプラザホテル
札幌市北区北24条西5丁目1 TEL 011-758-3111
 - 2 会費 大会費：1,000円 当日受付にて申し受けます
 - 2 講演 堀田 季何氏
(俳誌「樂園」主宰・現代俳句協会IT部長・第77回現代俳句協会賞)
 - 3 演題 「未 定」
 - 4 講評 道内外主要作家
 - 5 応募規定 2句1組 1,000円 但し高校生以下は4句まで無料新作未発表作品に限る
所定用紙または200字詰原稿用紙(協会HPからもDLできます)
※作品は出句料(定額小替為等)に同封可
 - 6 送付先 〒063-0811 札幌市西区琴似1条1丁目2-38 琴似コート614号室
金子真理子 TEL 011-644-5193
 - 7 応募期間 令和5年1月11日(水) 開始～3月3日(金) 締切 当日消印有効
 - 8 賞品 大会賞他
 - 懇親会 大会に引き続き同ホテル別室にて午後4時半から
会費 6,000円 当日受付にて申し受けます
※懇親会出席の取消しは当日3日前までとし、以降は会費を頂戴します
※コロナ感染状況により変更になる場合があります
- なお当日は第23回中北海道現代俳句協会賞の懸賞も併せて行われますのでご了承ください

礎

齋藤 玄

略歴 大正三年函館市生 昭和一二年「京大俳句」に参加。昭和五年「壺」創刊。昭和八年、石田波郷に師事。昭和二年「壺」休刊。昭和四三年連作「クルーケンベルヒ氏腫瘍と妻」発表。昭和四七年、句集「玄」刊行。昭和四八年、「壺」復刊。昭和五四年、句集「雁道」刊行。昭和五五年、蛇笏賞受賞。同年五月八日永眠。

炎天といのちの間にもの置かず
明日死ぬ妻が明日の炎天嘆くなり
たましひの繭となるまで吹雪きけり
雁を飛ばす火種の鶏頭花
死が見ゆるとはなにごとぞ花山椒

五十嵐秀彦 抄出

〔青のフロント〕 佳句抜粋

化学反応終ればジャムの瓶に朱夏

村上 海斗

脳しばし空っぽにして夏の湖

戸田幸四郎

挽ぎたての胡瓜を嫌う人と住む

穴戸 和久

恋文の修辞も桃もすぐ傷む

松王かをり

日の花野星の花野に老いにけり

中川 洋子

猫足の椅子に鎮座す蝨斯

木下 小町

産声も葬りも月光園のもの

高橋あや子

幹事会報告

R4年9月15日(木)かでの2・7/610号室
議題

- 1 俳句研究交流句会結果報告(組織活動部)
令和4年度俳句研究交流句会の報告と今後の句会の在り方について協議
- 2 令和5年度総会及び新年会(事務局)
令和5年度の総会新年交流会の日程など
- 3 第23回中北海道現代俳句賞について
(組織活動部・顕彰係)
- 4 会報96号(広報部)
12月発行分の巻頭言・礎欄原稿依頼の件
- 5 令和5年度第32回北海道現代俳句大会(事業部)
開催場所、講師依頼の確認
各賞の提供団体の確認
- 6 その他
三顧問選者の会開催日時
他協議内容の検討

出席者13名

五十嵐・亀松・原田・林・鹿岡・遠藤・青山
中田・近藤・金子・阿部・菅井・Fよしと

R4年11月17日(木)かでの2・7/610号室
議題

- 1 2023年度総会議案及び新年交流会(事務局)
総会の開催要領及び新年交流会の中止
- 2 令和5年度第32回中北海道現代俳句大会(事業部)
次年度北海道現代俳句大会の確認
- 3 中北海道現代俳句賞(組織活動部)
進行状況と選考委員会の実施日について
- 4 三役・顧問・選者の会(事務局)
10月30日開催時の状況報告など
- 5 会報96号(広報部)
作業日及び発行日の確認、一句集
- 6 その他
中現俳賞選考委員について会長の報告など

出席者12名

五十嵐・亀松・林・瀬戸・遠藤・青山・中田
近藤・金子・阿部・菅井・Fよしと

「青のフロント」句会のご案内

日時 偶数月第2土曜日 13～16時
場所 かでの2・7 当季雑詠3句
TEL 011-852-7014 五十嵐
※2022年12月10日については東区民センターにて開催

「中北海道ゼロ句会」のご案内

不定期開催

問合先・ngh_zero_kukai@outlook.jp
村上までご遠慮なくお尋ねください

第二三回現代俳句協会年度作品賞

第二三回現代俳句協会年度作品賞は松王かをりさんが「海原へ」にて受賞され、一月一二日開催の現代俳句大会席上で顕彰が行われました。心よりお祝い申し上げます。中北海道現代俳句協会からは祝電をお送りしました。

◆事務局だより

今年も去年と同様にコロナウイルス感染症拡大のニュースと、新たにウクライナへのロシア侵攻のニュースが重なるなど、不安の押し掛かる毎日でしたが、そんな中、第二三回現代俳句協会年度作品賞を当協会会員の松王かをりさんが受賞されたことは明るいニュースのひとつです。先の現代俳句評論賞に続く、ふたつ

めの大きな受賞であり、当協会としても大変名譽なことと思います。

年が明け一月からは、五十嵐会長が理事を務める北海道文学館にて「細谷源二と齋藤玄 北方詩としての俳句」という特別展が開催されます。当協会にも協力を求める書簡が届き、これを承諾致しました。この特別展には中北海道現代俳句協会と俳人協会北海道支部が協賛し、長野県上田市に立てられた「俳句弾圧不忘れの碑」の呼掛け人である、俳人・マブソン青眼氏の講演や、鈴木牛後氏らの座談会なども企画されているようです。北海道の戦後俳句を発展させた源二と玄の特別展にぜひ足を運んで下さい。

(Fよしと)

編集後記

総会・大会・交流句会も予定通り無事終り安堵しています。俳句甲子園札幌会場も過去最大のチーム数にて開催されました。文学フリマも広い会場に移り、若いひとたちが俳句や短歌を楽しむ光景が戻ってきました。北海道新聞俳句賞は旭川の鈴木総史さんが最年少で受賞され、若い世代の伸びやかさが眩しく感じられます。松王かをりさんの現代俳句協会年度作品賞受賞の報もうれしく、総会の席で改めてお祝いできればと存じます。コロナの状況はただいま第八波。どなたさまもご自愛なさってお過ごしください。

(青山酔鳴)

令和5年度 総会

<総会>

- ・日時
令和5年2月4日(土)14時
- ・会場
かでる2・7 940室

<新年交流会>

※今回はございません

※往復葉書にてご案内いたします。恒例の一人一句集の募集も兼ねますので、必ず出欠ご返信ください。欠席の方は委任状に記名下さいますようお願い申し上げます。

会員運営の句会の案内や 出版物のお知らせをします

紙面に隙間のある場合の不定期になります。是非ご利用ください。詳しくは広報までお尋ねください。

会員動向

<入会> 悠とし子
会員数 109名
(令和4年10月31日現在)

中北海道現代俳句協会 会費納入の御願い

当会年会費2千円の納入は振込です。手数料のご負担もお願いいたします。
口座番号 02780-9-48961
中北海道現代俳句協会

発行人 五十嵐 秀彦

発行所 中北海道現代俳句協会

〒064-0952 TEL 011-641-1007
札幌市中央区宮の森2条8丁目1-18
Fよしと方

編集人 青山 酔鳴

〒061-1354 TEL 090-3398-3457
恵庭市島松旭町4丁目9-1